金沢大学　グラフ広報紙　Acanthus News

月刊 アカンサス ニュース

第46号　2000(平成12年).5

「アカンサス」とは，古代ギリシャ・ローマに由来し，金沢大学の校章にも使われている植物の名称（和名「ハアザミ」）です。

トップニュース　Top News

「地域と金沢大学」公開シンポジウム開催

開会のあいさつをする林勇二郎学長
＝4月22日，金沢市内のホテルで

意見を交わすパネリスト
＝同上

4月22日(土)午後，新しい世紀にふさわしい地域との相互協力・発展の在り方を探るため，金沢市内のホテルで公開シンポジウムを開催した。330名が参加し，盛会のうちに終了した。
（２頁～3頁に関連記事）

第1期生入学式挙行

大学院　法学研究科公共システム専攻
医学系研究科保健学専攻

平成12年度に新設された大学院修士課程2専攻の入学式が，4月27日(木)午前，事務局大会議室で行われた。

林勇二郎学長が，「第1期生の苦労は大きいが，誇りと自覚を持って勉学と研究に励んでほしい」と，告辞を述べた。

入学者代表として宣誓した伊藤麻美子さん（三重県出身）＝写真＝は，入学式終了後「第1期生として責任を感じている。高齢者や痴呆者のケアに関心があり，大学院修了後は金沢に残ってお役に立ちたい」と抱負を語った。

学長の告辞を聴く入学者
＝4月27日，事務局大会議室で

入学者数は次のとおり，
公共システム専攻5人，保健学専攻77人
（既存の学部，大学院等の入学式は4頁，5頁に掲載）

人材育成は大学の役割

三谷　充氏

大学は企業で使える人材(学生)の育成を。独立法人化をにらんだ経営強化をと提言

夢のある大学づくりを

宮下　孝晴センター長

「街の中にサテライトキャンパスを」と，イタリア・フィレンツェ大学を例に，未来の大学づくりについて講演

大学は存在意義を

石原　多賀子氏

大学は地域のニーズを求めてほしい，地域の人に分かる言葉で話してほしいなど，地域に根ざした大学づくりについて講演

行政と大学の連携

斎藤　直氏

地域への情報提供など，産学官連携を積極的に進めてほしい。地域との関わりの中で，行政と大学の連携プレイが必要であると提言

常に自己改革を

和田　敬四郎副学長

職員は常に自己改革を。大学の智を生かし，街中にサテライトキャンパスを設けて連日開講なども検討すべきと提言

プログラム

(敬称略)

あいさつ

林　勇二郎(金沢大学長)

基調講演

石原　多賀子(金沢市教育委員会教育長・教育改革国民会議委員・金沢大学運営諮問会議委員)
　テーマ「地域が金沢大学に何を期待しているか」

宮下　孝晴(金沢大学大学教育開放センター長・教育学部教授)
　テーマ「地方の未来と大学の未来」

提　言

三谷　充(三谷産業株式会社代表取締役社長)
斎藤　直(石川県商工労働部長)
和田敬四郎(金沢大学副学長・附属図書館長・理学部教授)

《休憩》

パネル討論

○　パネリスト
　三谷　充(三谷産業株式会社代表取締役社長)
　斎藤　直(石川県商工労働部長)
　橋本　哲哉(金沢大学50周年史編纂委員会委員長・経済学部教授)
　河崎　一夫(金沢大学医学部附属病院長・医学部教授)
　宮下　孝晴(金沢大学大学教育開放センター長・教育学部教授)

○　コーディネーター
　辻　彰(金沢大学総合移転実施特別委員会委員長・薬学部長)

質疑・応答

あいさつ
　鴨野　幸雄(金沢大学独立行政法人化問題検討委員会委員長・法学部教授)

○　総合司会
　村上　清史(金沢大学がん研究所教授)

目　次

2000(平成12)年5月　第46号

[1頁] トップニュース
　「地域と金沢大学」公開シンポジウム開催
　第1期生入学式(法学研究科公共システム専攻，医学系研究科保健学専攻)挙行
[2頁] 金沢大学フォーラム「地域と金沢大学」特集

[4頁] 巻頭言・4月のビッグニュース
　── 2000年度　金沢大学「いま始動！」──
[6頁] お知らせ
　・春の叙勲受章の方々
　・病院長補佐の紹介
　・MEX金沢2000に出展
[7頁] 学長室・副学長室から
　・総合移転第Ⅱ期工事現場視察
　・金沢大学紹介ビデオを試写
　・特別展「金沢大学資料館へようこそ」
　・第51回金沢大学暁烏記念式
[8頁] キャンパス点描
　編集後記

パネル討論に参加し「大学は地域のために英知や研究成果を積極的に提供してほしい」と意見を述べる参加者
＝4月22日，金沢市内のホテルで

公開シンポジウム「地域と金沢大学」の立看板
＝同左

第1回金沢大学フォーラム(報告)

シンポジウム小委員長・薬学部長　辻　彰

辻シンポジウム小委員長

═ 300人を超える参加者 ═

藩政時代から加賀藩の伝統に培われた金沢大学が，地域の発展に多大な貢献をしてきたことは，自他共に認めるところである。しかし，城内から角間へのキャンパス移転を契機として，本学が距離的にも，市民との交流が遠くに感じるようになったとの声が少なくない。そこで，本学が目指す「地域に開かれた大学」づくりの第一歩として，公開シンポジウム「地域と金沢大学－21世紀に向けた相互発展を目指して－」を，4月22日(土）シティモンドホテルにて開催した。市民や学内者など約330人の参加を得て，会場からあふれた参加者は，モニターテレビを通してシンポジウムに加わるという盛会ぶりであった。

═ 基調講演と提言 ═

開催にあたり，林　勇二郎学長は「地域と大学が更に発展し，新たな伝統を築かねばならない」と挨拶した。基調講演で，石原多賀子・金沢市教育長は「大学は教育の質と学術内容で存在意義が問われている」と指摘し，山出金沢市長が本学に期待するものとして，教官・学生の市井(せい)への参加，研究の公開，市政策立案における大学との連携を要望していると述べた。次いで，宮下孝晴・大学教育開放センター長は，金沢大学キャンパス2050検討グループ座長として提言した，「金沢大学と地域との交流の未来像」について映像を用いて紹介した。

基調講演に続いて，産業側からは三谷　充・三谷産業株式会社社長は，業績の適正評価システムの確立や，独立行政法人化をにらんだ経営強化を説いた。行政側からは斎藤　直・県商工労働部長は，産学官連携の取り組みが鈍いと指摘した。和田敬四郎副学長は，夜間講義の開設によって地域との連携が強化できることを提案した。

═ パネルデスカッション ═

パネル討論では，橋本哲哉・経済学部教授より，本学が小松市の人口に匹敵する人材を各界に輩出してきたこと，河崎一夫・医学部附属病院長より，地域医療における貢献が述べられた後，約1時間40分にわたって本学の現在の問題点と将来像について活発な議論が交わされた。指摘された問題点は，企業が求める人材を輩出していない，地域の中小企業のニーズに適合した研究が行われていない，などであった。これに対し学内パネラーから，「地元企業から大学へ財政的な協力が必要」，「大学は役に立つ研究だけを考えるべきではない」，「市街地にサテライトキャンパスを持つことも大切」であるが，「カルチャーセンターではなく，知の欲求を満たすものであるべき」と意見が述べられた。フロアーからは，「魅力ある開放講座であれば，キャンパスが遠くにあっても問題ない」などの発言があった。

以上の意見を今後の大学改革の中で検討し，具現化していくことが必要であろう。本シンポジウムは，引き続き開催する計画である。

巻頭言

フォーラム「地域と金沢大学」に思う

医学部附属病院長
河崎　一夫

金沢大学フォーラム「地域と金沢大学」が4月22日に開催された。公開シンポジウムの名に応え，市民の皆様の参加も得て超満席となり，「参加者が少ないのでは」という主催者側の心配は杞憂（きゆう）に終わった。

大学の諸部局の中で，地域に対して日常的に最も門戸を開いているのは附属病院であろう。大学病院は国立といえども，管理運営に関し厳しい指導を受ける。種々の評価項目があるが，病床稼働率はその一つである。全国42の国立大学病院中で当附属病院の病床稼働率は第3位にあり，総合評価でも第3位にある。数のみを誇る意図はないが，この事実は多くの患者さんが当附属病院を信頼して受診して下さる証拠であり，感謝にたえない。全科の専門医が24時間体制で待機する大学病院は，地域の皆様に大きな安心感を与えていると確信している。当附属病院では年間延27万人の入院患者さん，延37万人の外来患者さん（1日平均1,500人）のお世話をする。これに伴う年間140億円を超える病院収入は国庫に納められ，我が大学の総収入の約7割を占める（他は授業料等）。このような膨大な国庫収入をもたらす医療行為に従事する医師に対する給与体系には，他の学部の教官と差はない。

医療の質に関しては，各種の高度な医療を提供しており，厚生省が承認した高度先進医療3件を実施し，さらに1件申請中である。世間の話題を集める生体肝移植も当院ですでに実施され，手術後の経過は極めて順調である。

当院の泣き所は建物の古さである。築後ほぼ40年，一部戦前の建物も病棟として使っている。「病院は建物でなく中身だ」と力んでみても，快適な新しい病室が良いに決まっている。新病棟が当局の格別の御指導を得て建築中であり，10階建ての威容が小立野台に聳（そび）え始めている。来年秋には新病棟に患者さんをお迎えできることを念願している。新病院としての機能を全うするには，さらに中央診療棟（手術部，放射線部，検査部等）・外来棟の改築が不可欠であり，この実現に向かって病院職員一丸となって粉骨砕身尽力中であるが，当局の格別の御理解を切に御願いする。

次回のフォーラムは「地域……」とは対極の「世界に羽ばたく金沢大学」では如何ですか？

2000年度　金沢大学

たくさんの新入生を迎えて，平成12年度が始まった。

4月7日（金），金沢市観光会館において学部等の入学宣誓式，続いて医学部十全講堂で，大学院の入学宣誓式が挙行された。

平成12年4月の入学者数は次のとおり。

学部学生 ……1,910人
（留学生11人を含む）
大学院修士課程及び博士前期課程…851人
博士課程及び博士後期課程…197人
編入学 ……71人
特殊教育特別専攻科 ……1人
養護教諭特別別科 ……27人

大学院入学宣誓式

時：4月7日（金）11時
所：医学部十全講堂

また，平成12年度に新設された大学院研究科の入学式は，4月27日（木），事務局大会議室で行われた。

入学宣誓をする入学者代表
＝4月7日，医学部十全講堂で

学長の告辞を聴く入学者
＝同左

平成12年度入学宣誓式

時：4月7日(金) 10時
所：金沢市観光会館

「大学の学生生活の中で，個性のある自己を形成することを望みたい。そのため，大学の主体である学生諸君が自ら学び，自ら行動することが最も重要なことである。自然に恵まれ，詩情豊かな学府・金沢で学ぶことを誇りとし，美しく実りのある青春の時を刻まれることを祈念する」と，新入生に告辞を述べる林勇二郎学長。その後ろは，各部局長。

2,000人の新入生で超満員の入学宣誓式場。
入学宣誓式のあと，畑副学長，和田図書館長，馬渕保健管理センター所長によるオリエンテーションが行われた。最後に，学生合唱団による金沢大学校歌の紹介があった。

新入生のほか，たくさんの父母や報道関係者などでごったがえす入学宣誓式場前。当日は快晴。

附属学校園でも入学・入園式

告辞を述べる森　源三郎教育学部附属中学校長
＝4月10日，教育学部附属中学校体育館で

教育学部附属小学校の入学式
＝4月10日，教育学部附属小学校体育館で

教育学部各附属学校では4月10日(月)に，附属幼稚園では4月12日(水)に入学式と入園式が行われた。入学・入園者数は次のとおり。

小学校	119人	中学校	159人
高等学校	120人	養護学校	18人
幼稚園	56人		

「いま始動！」

事務一元化
「契約室」始動！

この4月，事務の合理化・一元化がスタートした。

その一つが，経理部契約室を新設し，従来各部局で行っていた物品購入等の業務をここに一元化した。ほかに，総務部に研究協力課と企画広報室が設置され，これらの分野での充実が図られた。

角間地区契約室

宝町地区契約室

水上修一　新事務局長就任あいさつ
「金沢大学の発展充実のため最大の努力を」

4月1日付けで，富山大学事務局長から金沢大学に就任した水上修一事務局長は，事務局職員に対する就任のあいさつで，「現在，大学に求められている事項をしっかりと見極め，事務の果たす役割を意識してそれぞれの部署で切磋琢磨し，新しい年度のスタートを切りたい」と述べた。

新任のあいさつをする水上修一事務局長
＝4月3日，事務局大会議室で

春の叙勲受章の方々（本学関係分）

4月29日，平成12年度春の叙勲受章者が発表され，本学関係では，次の6氏が栄えある叙勲を受章した。

勲二等瑞宝章
進藤（しんどう）　牧郎（まきお）　氏
（名誉教授，元法文学部長）

勲二等瑞宝章
柴原（しばはら）　正雄（まさお）　氏
（名誉教授，元工学部長）

勲三等瑞宝章
野村（のむら）　進（すすむ）　氏
（名誉教授，元医学部教授）

勲三等瑞宝章
岡本（おかもと）　克昶（かつのぶ）　氏
（医療技術短期大学認名誉教授，元医療技術短期大学認主事）

勲六等宝冠章
長谷部（はせべ）　楽子（らくこ）　氏
（元医学部附属病院，看護婦長）

勲六等単光旭日章
小村（こむら）　良昭（よしあき）　氏
（元医学部附属病院，診療放射線技師長）

病院長補佐の紹介

4月17日，医学部附属病院病院長補佐に次の3教授が就任した。任期は，平成12年4月17日から平成13年3月31日まで。

小林　健一　教授
「臨床教育・臨床研究，先進医療及び地域医療支援」担当

小林　勉　教授
「診療・安全対策」担当

富田　勝郎　教授
「病院経営改善」担当

「新たな産学連携の風」を吹かせよう
共同研究センターがMEX金沢2000に出展

4月20日（木）から3日間で6万人近くの来場者を迎え，MEX金沢2000（機械工業見本市）が石川県産業展示館で開催され，例年どおり本学共同研究センターはブース出展をした。

今回は，科学技術相談のほか，「スキーロボット」の実演や「NMRイメージング」と「バーチャル北陸」の紹介を出展の目玉とし，多くの方々が立ち止まり質問が交わされるなど，意図したとおりの好評さで，本学のアピールや今後のイベント紹介に大いに役立ったと思う。

また，新たに作成し出展した「センター概要」，「センターニュースVol.9」，「研究成果報告集　第2号」も予想以上の人気で，何度も大学に取りに戻らねばならないほどだった。

昨今の情報技術（IT）や技術移転（TLO）などに対する相談も受け，産学連携にも新たな研究動向と活動体制づくりが必要と強く実感された。

写真上：「スキーロボット」を実演紹介する工学部米山研究室
写真下：技術相談に応じる廣瀬センター長
＝4月20日，石川県産業展示館で

総合移転第Ⅱ期工事現場視察

4月19日，小雨の中，林勇二郎学長は，施設部職員とともに第Ⅱ期工事現場の視察を行った。

また，翌20日には，中村浩二理学部教授とともに「角間の里山」を散策した。

山頂付近から，二期工事現場を視察する林勇二郎学長

山頂付近から望む，既設建物群

特別展「金沢大学資料館へようこそ」

4月10日から21日までの間，特別展「金沢大学資料館へようこそ」が資料館展示室で開催され和田副学長が訪れた。

同展は，本学の前身校などの館蔵資料が展示され，新入生の本学に対するアイデンティティ形成の一助としている。

和田敬四郎副学長（附属図書館長）（写真左）を案内する三好義昭資料館長
＝4月19日，金沢大学資料館展示室で

金沢大学紹介ビデオを試写

この度，平成12年度版の金沢大学紹介ビデオ（日本語版及び英語版の2通）が完成し，学長室で試写会が行われた。

完成した紹介ビデオを観戦する
林勇二郎学長（写真中央）
＝4月27日，学長室で

51回目の「暁烏記念式」

4月28日（金）15時から，附属図書館主催の「第51回金沢大学暁烏記念式」が行われた。

和田敬四郎附属図書館長が，「暁烏敏先生が，本学に書籍や資料を寄贈された4月29日を，戸田正三初代学長が〈暁烏記念日〉とした。今回で51回目となり，たいへんうれしい」と，あいさつをした。

続いて，林勇二郎学長から，「暁烏先生が5万冊もの書籍を後に来る人たちのために残されたということを確認し，その意志を引き継ぐことが重要である」と，祝辞を述べた。

そのあと，阿満利麿（あまとしまろ）明治学院大学教授による「近代仏教の〈実験〉満之・顕明・恵猛」と題した記念講演が行われ，式を閉じた。参加者約50人。

記念講演を聴く林勇二郎学長
＝4月28日，金沢大学附属図書館で

濁水処理

本学では，総合移転第Ⅱ期工事に伴う濁水等の放流を防ぐため，濁水処理施設を設置し，SS（浮遊物質量）及びPH（水素イオン濃度）による濁水処理を行っている。

濁水（写真左方）が清水（写真右方）に変換

大木の移植

TPM工法により移植される大木と移植運搬機械。

総合移転第Ⅱ期造成工事現場から

門標

中村信一医学系研究科長＝写真＝が「金沢大学大学院医学系研究科」の門標を揮号。（保健学専攻の設置に伴い，「医学研究科」から「医学系研究科」に名称変更）

「医学系研究科」門標前の中村研究科長・医学部長

訂正　第45号（2000.4）に次の誤りがありました。お詫びして訂正します。

			（誤）		（正）
6ページ下段	平成12年度研修実施計画中	○説明会	日本学術会議	→	日本学術振興会
7ページ上段	新任部局長等の紹介中	教育学部長	（地理学）	→	（地質学）

編集後記

平成12年4月1日，事務局総務部に企画広報室が誕生した。

業務は，点検･評価（外部評価を含む），法人化問題，組織改革，事務の改善・合理化等，大きくは大学改革全般に関する事務を所掌する。平成13年度から実施される情報公開も担当する。さらに，生涯学習の推進と，地域との交流促進に関することも行う。そして，報道機関との対応などの広報の担当でもある。加えて，この「アカンサスニュース」と「事務通報」の発行を行う部署である。室長を含めて総勢6名。

さっそく従来の「アカンサスニュース」の見直しを行った。当面試行的に毎号何か一つでも，金沢大学の「いま」をお知らせしたいと思っている。地域交流の「いま」であったり，組織改革の「いま」であったり，総合移転の「いま」などを取り上げたい。気負いが先走って，内容が伴わないかもしれないが，頑張ってみることにした。皆様の御協力と御支援をお願いしたい。

今号は，2000年度金沢大学「いま，始動！」。

（総務部企画広報室長　寺井嘉治）

平成12年5月19日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）
〒920-1192　金沢市角間町
編集　金沢大学総務部企画広報室
TEL 076-264-6136
FAX 076-234-4015
◆本紙の内容，その他本学に関する諸情報については，「金沢大学ホームページ〈愛称“KUPIS”（キュービーズ）〉」（アドレス ＝ http://www.kanazawa-u.ac.jp）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは，電子メール（E-mail）＝ general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。